

# 中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和2年 10月～12月実績

令和3年 1月～3月見通し

福井県商工会連合会



## I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間 令和2年10～12月期実績及び令和3年1～3月期見通し
7. 調査時点 令和2年11月15日（金）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

### 9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

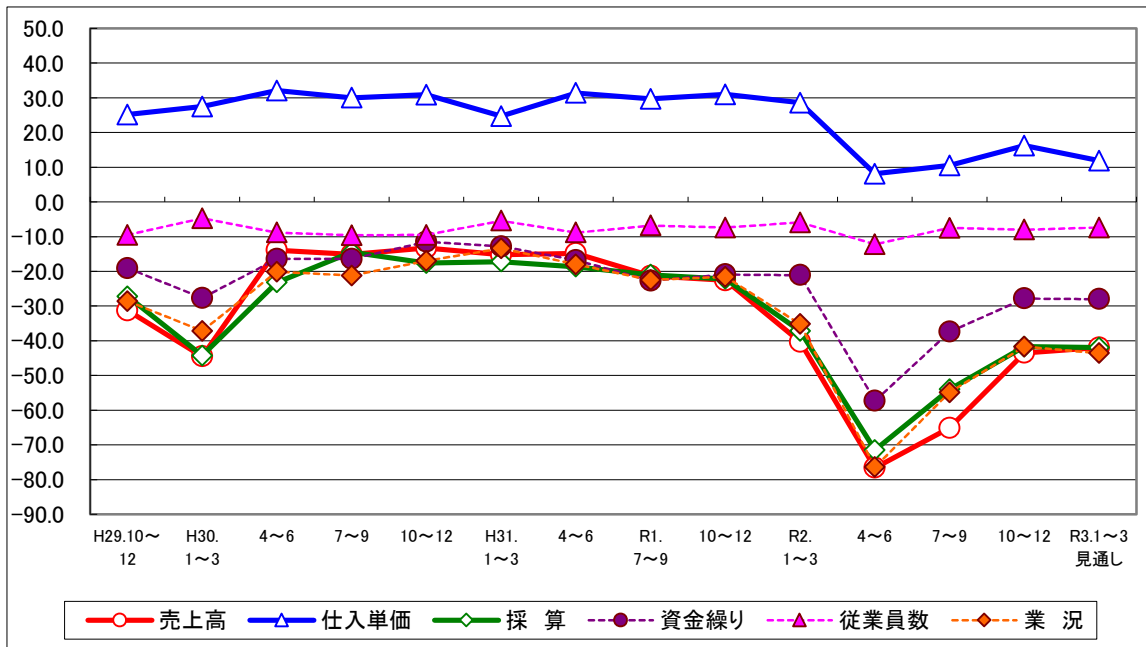
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

### 10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 教授 南保 勝 氏

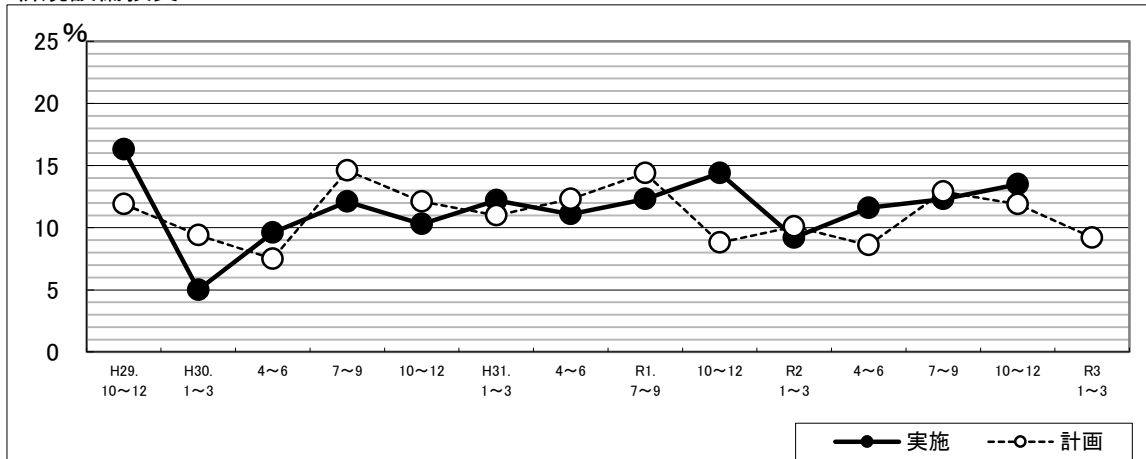
## 全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向推移(前年同期比:DI値)

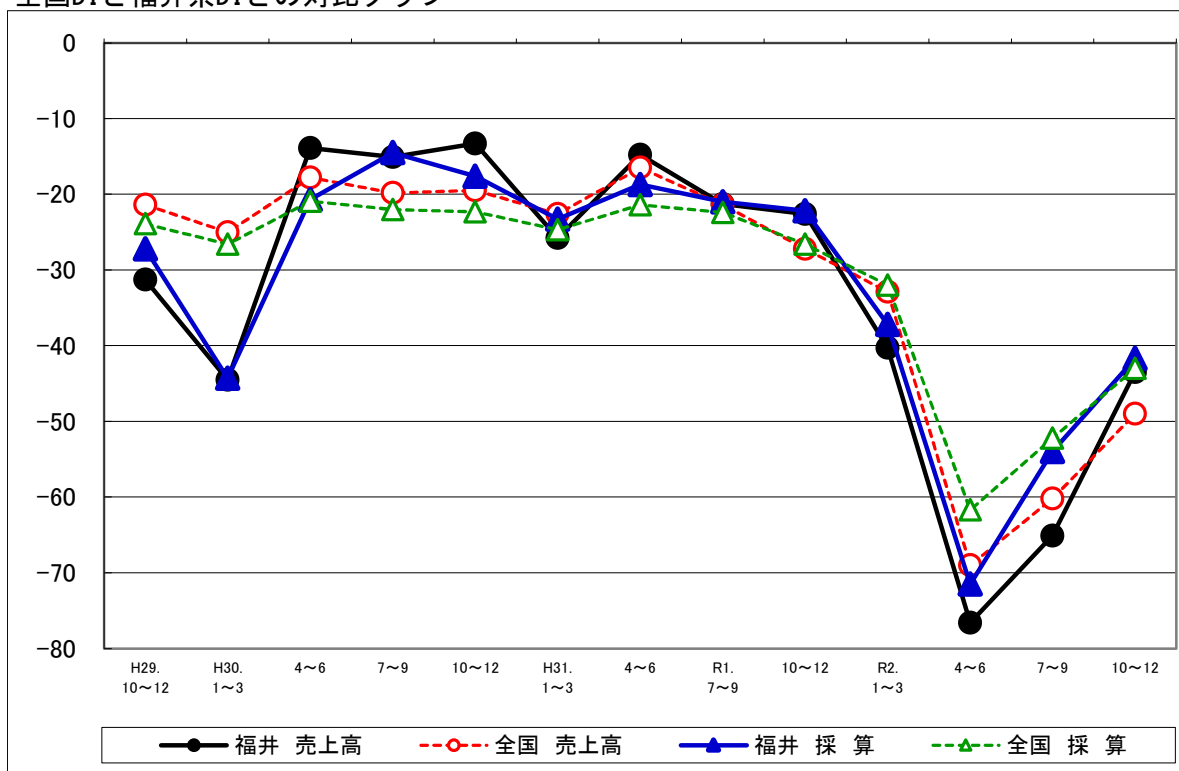
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H29.10~12	▲ 31.3	25.2	▲ 27.2	▲ 19.1	▲ 9.5	▲ 28.6
H30.1~3	▲ 44.5	27.5	▲ 44.3	▲ 27.7	▲ 4.7	▲ 37.2
4~6	▲ 13.9	32.1	▲ 23.2	▲ 16.4	▲ 8.8	▲ 20.1
7~9	▲ 15.1	30.0	▲ 14.5	▲ 16.4	▲ 9.6	▲ 21.2
10~12	▲ 13.3	30.9	▲ 17.6	▲ 11.5	▲ 9.5	▲ 17.0
H31.1~3	▲ 15.2	24.7	▲ 17.2	▲ 12.8	▲ 5.4	▲ 13.4
4~6	▲ 14.8	31.4	▲ 18.7	▲ 16.8	▲ 8.8	▲ 18.0
R1.7~9	▲ 21.3	29.7	▲ 21.0	▲ 22.7	▲ 6.8	▲ 22.5
10~12	▲ 22.6	31.0	▲ 22.2	▲ 20.9	▲ 7.4	▲ 21.6
R2.1~3	▲ 40.3	28.6	▲ 37.2	▲ 21.1	▲ 5.9	▲ 35.2
4~6	▲ 76.6	8.1	▲ 71.5	▲ 57.3	▲ 12.2	▲ 76.4
7~9	▲ 65.1	10.5	▲ 54.0	▲ 37.4	▲ 7.5	▲ 54.9
10~12	▲ 43.5	16.2	▲ 41.7	▲ 27.8	▲ 8.0	▲ 41.7
R3.1~3見通し	▲ 42.0	11.9	▲ 42.0	▲ 28.0	▲ 7.4	▲ 43.6



### 新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R2年10-12月期の福井県経済を概観すると、需要面では、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、引き続き観光関連需要の落ち込みが続く中、飲食店などではテイクアウトの実施やオンラインビジネスの参入により低下した売上をカバーするなど、業種、業態間で業況格差が広がっている。供給面でも、電子部品・デバイス、自動車関連需要の復活などから、多くの業種で持ち直しの動きを強めたほか、マスクや防護服、フェイスシールドなどの新型コロナウイルス感染症を逆手に取って新製品開発に着手する企業が増加、本業部門を維持しながらも多角化する動きが強まっている。

こうした中、今期（R2年10-12月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち、仕入単価と従業員数を除いて改善の動きを強めている。ちなみに、項目ごとのDI値をみると、仕入単価（逆指数）が前期10.5から今期16.2へ、従業員数が前期▲7.5→今期▲8.0へと悪化。改善項目では、売上高が前期▲65.1→今期▲43.5、採算が前期▲54.0→今期▲41.7、資金繰りが前期▲37.4→今期▲27.8、業況が前期▲54.9→今期▲41.7となっている。今回の調査結果から、福井県内の中小企業では前期に続いてコロナ禍ながらさらに持ち直しの動きを強めていることがうかがえる。また、先行き（R3年1-3月期）については、3項目で改善予測、3項目で僅かながら悪化予測となっており、こうした状況から、来期は概ね現状維持の横ばいで推移することがうかがえる。

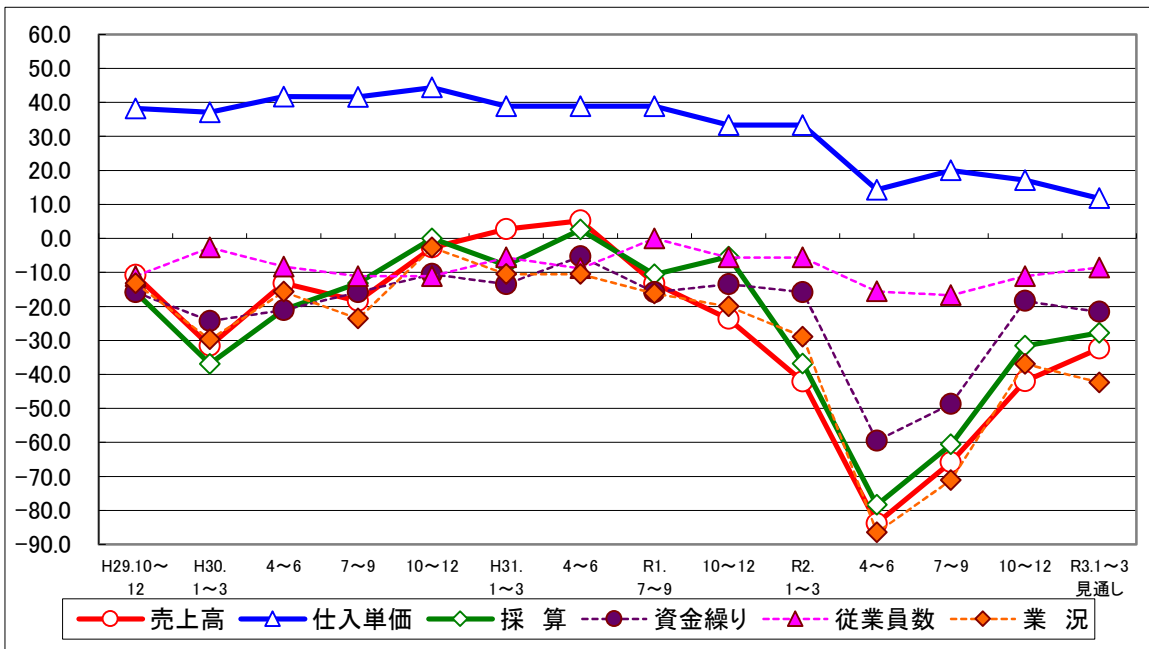
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、福井県、全国ともに前期に比べ改善しているが、両項目ともDI値は福井県が全国より上位にあることから、持ち直し傾向は福井県が強いとみるべきであろう。

そのほか、今期の新規設備投資については、設備投資を計画している企業ウエイト11.9%に対し実施した企業ウエイト13.5%と、実施が計画を上回っている。また、先行き（R3年1-3月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが9.2%と、投資マインドは今以上に低下することが予想される。

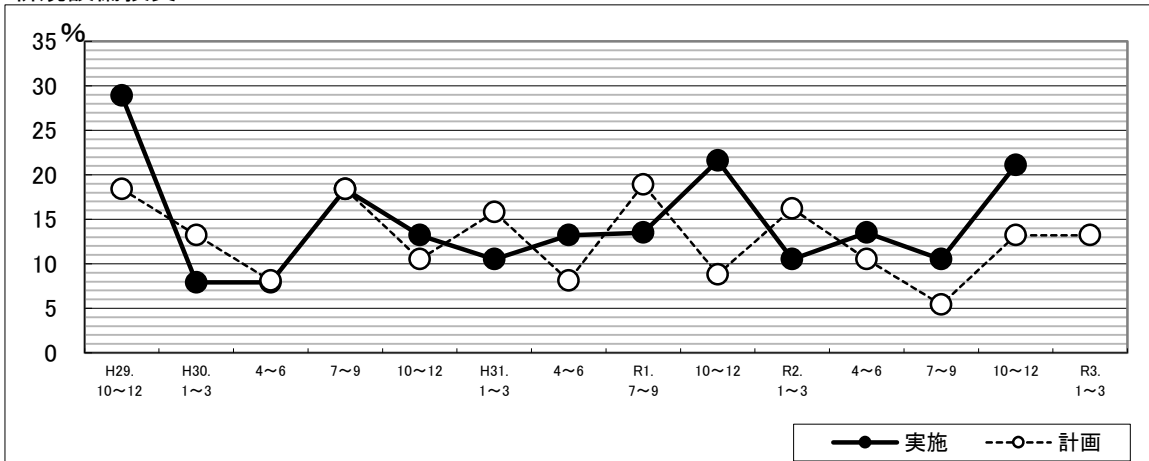
## 製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

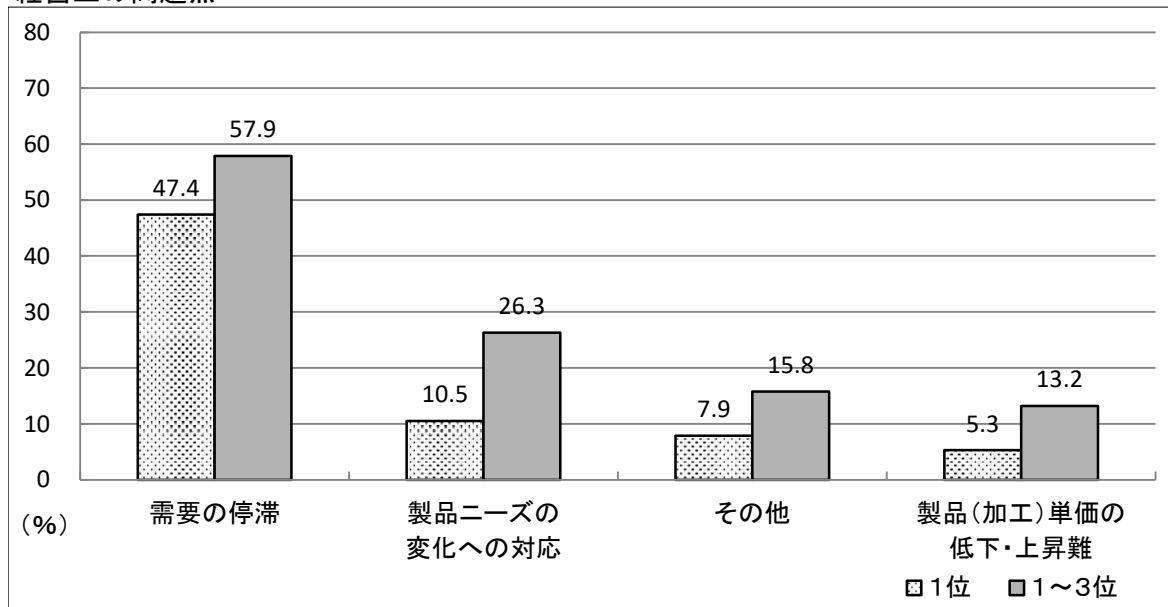
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H29.10~12	▲ 10.8	38.2	▲ 15.8	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 13.2
H30.1~3	▲ 31.6	37.1	▲ 36.9	▲ 24.3	▲ 2.7	▲ 29.7
4~6	▲ 13.2	41.7	▲ 21.0	▲ 21.1	▲ 8.3	▲ 15.7
7~9	▲ 18.4	41.6	▲ 13.2	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 23.6
10~12	▲ 2.7	44.4	0.0	▲ 10.5	▲ 11.1	▲ 2.7
H31.1~3	2.7	38.9	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 10.5
4~6	5.2	38.9	2.6	▲ 5.3	▲ 8.8	▲ 10.5
R1.7~9	▲ 13.2	38.9	▲ 10.6	▲ 15.8	0.0	▲ 16.2
10~12	▲ 23.7	33.3	▲ 5.4	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 20.0
R2.1~3	▲ 42.1	33.3	▲ 36.8	▲ 15.8	▲ 5.6	▲ 28.9
4~6	▲ 83.8	14.3	▲ 78.4	▲ 59.5	▲ 15.6	▲ 86.5
7~9	▲ 65.8	20.0	▲ 60.6	▲ 48.7	▲ 16.7	▲ 71.1
10~12	▲ 42.0	17.1	▲ 31.6	▲ 18.4	▲ 11.1	▲ 36.9
R3.1~3見通し	▲ 32.4	11.8	▲ 27.8	▲ 21.6	▲ 8.6	▲ 42.4



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・ コロナ禍の影響により売上がコロナ禍以前の水準に戻るまでに相当な時間がかかりそうである。
- ・ 新型コロナによる9月までの売上低迷から一転して10月は対策年120%の増収となった。
- ・ 受注数量自体が減少しているため、大きな売り上げ減少となった。

## 製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、繊維工業は、秋口に入り、非衣料分野で自動車、産業資材関連需要の復活などから持ち直しに入ったが、眼鏡枠は引き続き輸出の不振などから、低調な生産出荷動向が続いた。一方、機械工業は、電子部品・デバイスで、自動車、5G関連需要の高まりから、順調な生産出荷動向を維持。輸送機械も自動車需要の復活を受け、緩やかな回復に向かっている。

こうした中、今期（R2年10-12月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目全てで改善傾向を示している。各項目をみると、売上高が前期▲65.8→今期▲42.0、仕入単価（逆指数）が前期20.0→今期17.1、採算が前期▲60.6→今期▲31.6、資金繰りが前期▲48.7→今期▲18.4、従業員数が前期▲16.7→今期▲11.1、業況が前期▲71.1→今期▲36.9となっている。また、先行き（R3年1-3月期）については、資金繰りと業況を除く4項目で改善予測が立てられている。

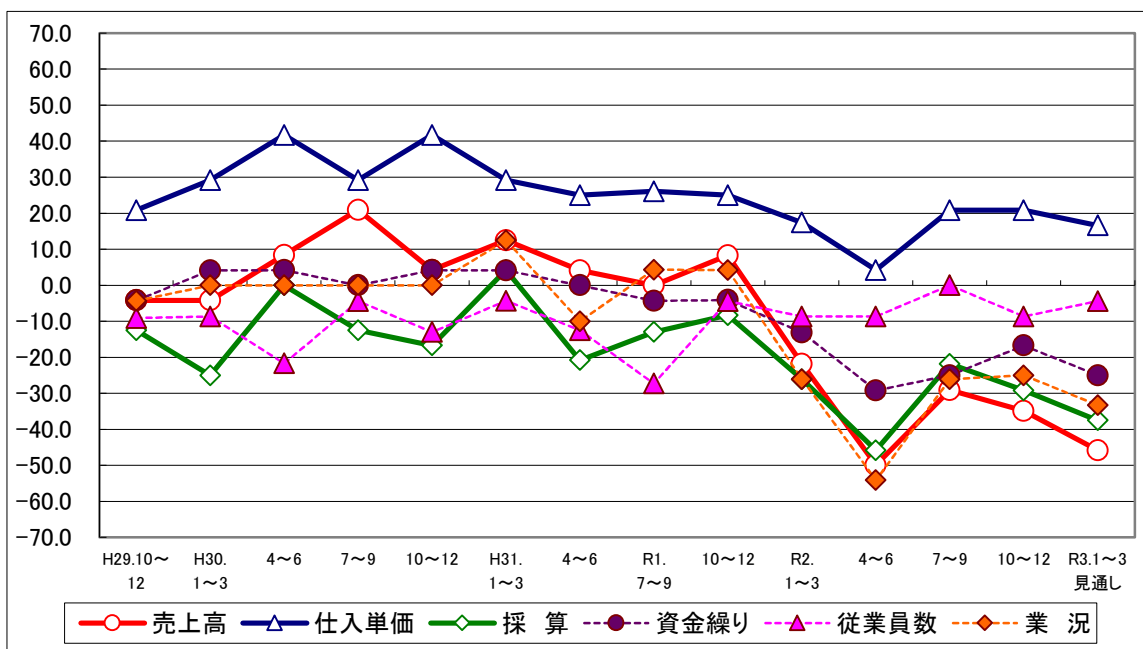
一方、新規設備投資の状況については、計画の13.2%に対し実施が21.1%と、実施が計画を上回った。また、先行き（R3年1-3月期）についても、何らかの投資を予定する企業が13.2%と、今期並みの投資活動が予想される。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「需要の停滞」で最も多く47.4%（1位～3位までに挙げた企業57.9%）を占めた。また、個別の見解としては、「売上がコロナ禍以前の水準に戻るまでに相当な時間がかかりそうである」、「受注数量自体が減少しているため、大きな売り上げ減少となった」など、悲観的な見解もみられた。

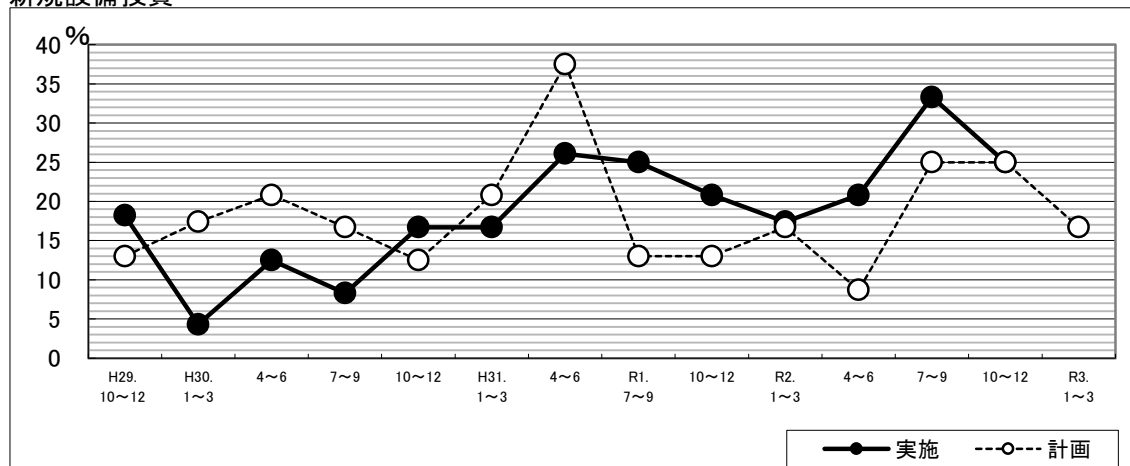
## 建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H29.10~12	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 9.1	▲ 4.3
H30.1~3	▲ 4.2	29.2	▲ 25.0	4.1	▲ 8.7	0.0
4~6	8.4	41.7	0.0	4.2	▲ 21.7	0.0
7~9	20.9	29.2	▲ 12.5	0.0	▲ 4.4	0.0
10~12	4.2	41.7	▲ 16.7	4.2	▲ 13.0	0.0
H31.1~3	12.5	29.2	4.2	4.1	▲ 4.3	12.5
4~6	4.1	25.0	▲ 20.8	0.0	▲ 12.5	▲ 10.0
R1.7~9	0.0	26.1	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 27.3	4.3
10~12	8.3	25.0	▲ 8.3	▲ 4.1	▲ 4.4	4.2
R2.1~3	▲ 21.8	17.4	▲ 26.1	▲ 13.1	▲ 8.7	▲ 26.1
4~6	▲ 49.9	4.2	▲ 45.8	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 54.1
7~9	▲ 29.1	20.8	▲ 21.8	▲ 25.0	0.0	▲ 26.1
10~12	▲ 34.9	20.8	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 8.7	▲ 25.0
R3.1~3見通し	▲ 45.8	16.6	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 4.4	▲ 33.3

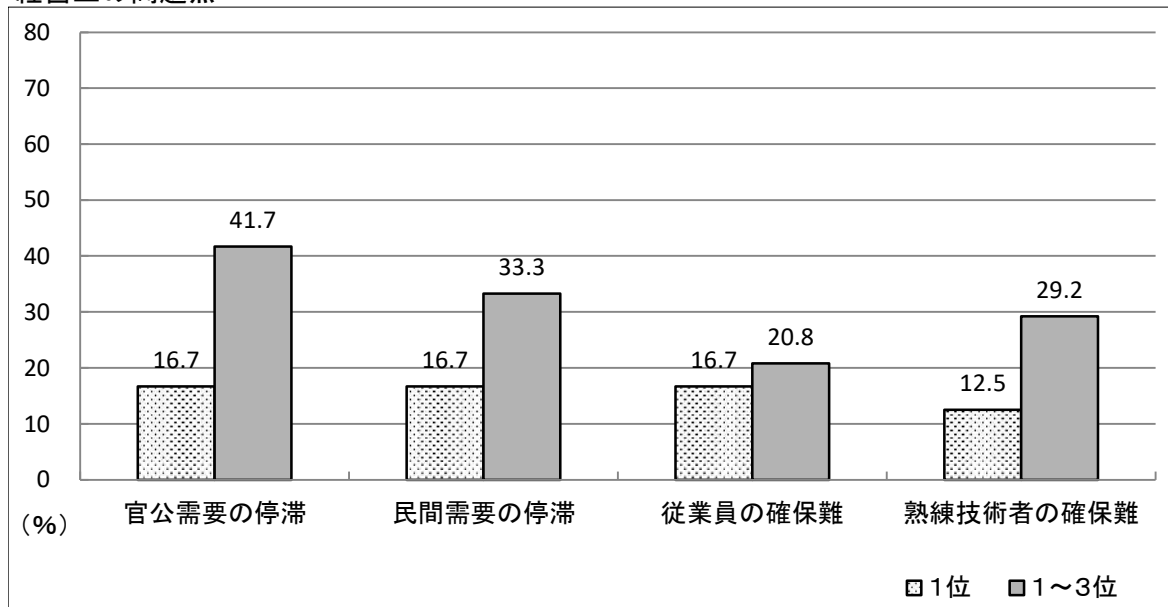


### 新規設備投資





## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・ コロナの影響を受けて入札物件が減少している。随契の物件も減少している。
- ・ 直近の引き合いは活発であるが、先行きを警戒して次期以降の発注には陰りが見えている。
- ・ 官庁案件が他市町で多く出ていることから、外部人材や下請確保が難しくなっている。

## 建設業の景況

福井県内におけるR2年度（R2年4～R2年11月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で1,546億76百万円の前年同期比5.4%の増加、発注件数は同2,812件の同2.3%の減少となっている。これを主な発注者別でみると、市町村関連工事が369億48百万円の前年同期比11.3%増、独立行政法人等関連工事が630億51百万円の同6.3%増となっている。一方、住宅投資については、R2年4～10月期までの7か月累計で、前年同期比22.3%減の2,359戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比14.1%減の1,432戸、貸家が同27.3%減の699戸となっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち資金繰りと業況で改善、仕入単価（逆指数）が横ばい、売上高、採算、従業員数で悪化傾向となり、前期と比べやや厳しい結果となった。各項目別のDI値をみると、売上高が前期▲29.1→今期▲34.9、仕入単価（逆指数）が前期20.8→今期20.8、採算が前期▲21.8→今期▲29.2、資金繰りが前期▲25.0→今期▲16.7、従業員数が前期0.0→今期▲8.7、業況が前期▲26.1→今期▲25.0となっている。また、先行き（R3年1～3月期）については、仕入単価（逆指数）と従業員数を除く4項目で悪化予測となっており、コロナ禍でも堅調を持続した建設業に僅かながら不安要素が増加している。

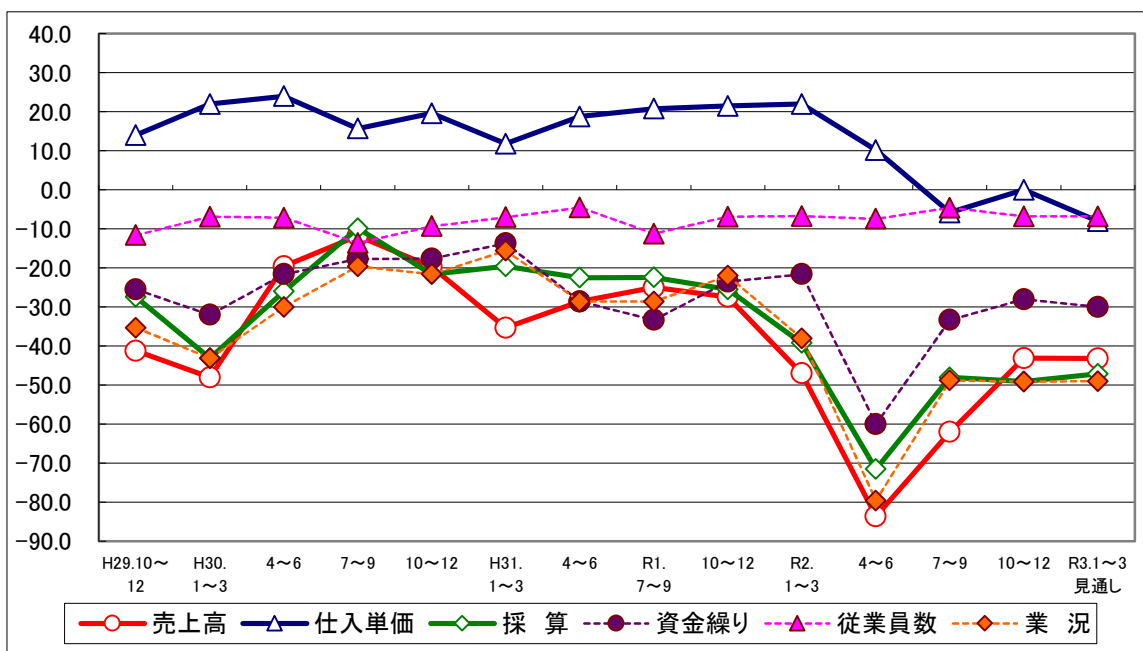
一方、今期の新規設備投資については、計画した企業13.2%に対し実施した企業が21.1%となり、堅調な動きを示した。ただ、先行き（R3年1～3月期）については、何らかの投資計画を持つ企業が今期同様の13.2%となっており、投資意欲の減退が懸念される。

最後に、経営上の問題点については、1位に上げた企業ウエイトが「官公需要の停滞」、「民間需要の停滞」、「従業員の確保難」の3項目で同率となり、多様な課題が浮上していることがわかる。その他の見解としては、「コロナの影響を受けて入札物件が減少している」、「これから官公庁の需要が少なくなる事が予想される」など悲観的な声が聞かれている。

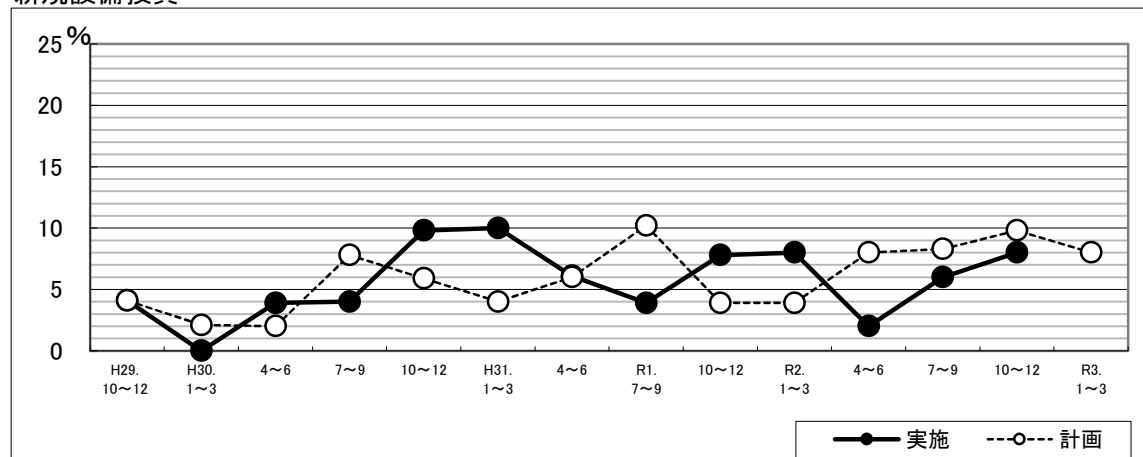
## 小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

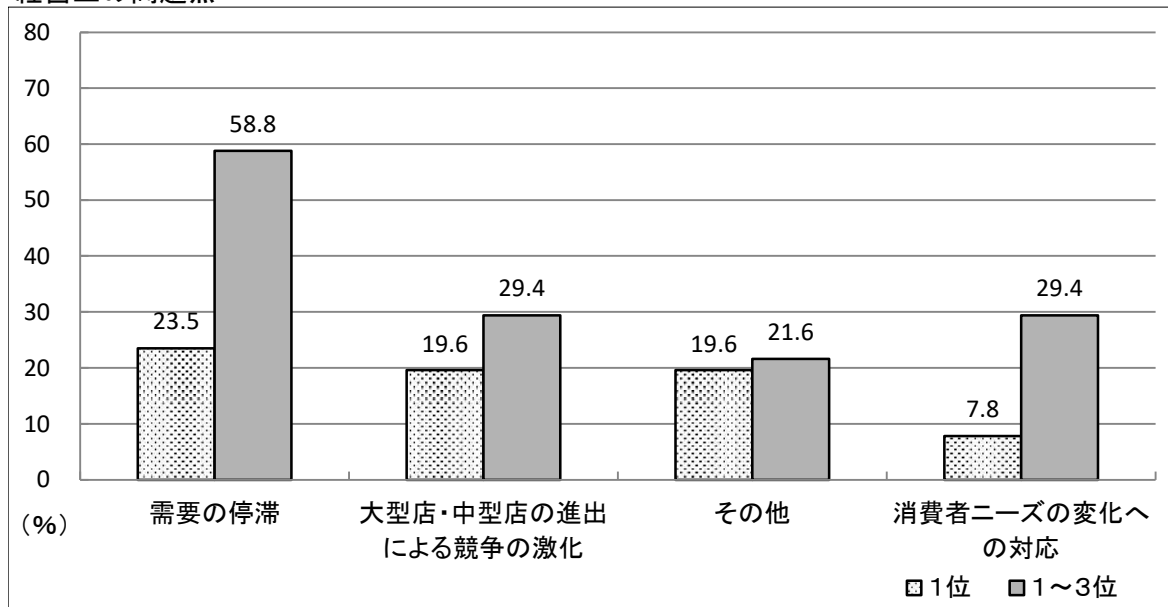
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H29.10~12	▲ 41.2	14.0	▲ 27.4	▲ 25.5	▲ 11.6	▲ 35.3
H30.1~3	▲ 48.0	22.0	▲ 43.1	▲ 32.0	▲ 6.9	▲ 43.1
4~6	▲ 19.6	24.0	▲ 26.0	▲ 21.6	▲ 7.1	▲ 30.0
7~9	▲ 11.8	15.7	▲ 9.8	▲ 17.7	▲ 13.6	▲ 19.6
10~12	▲ 19.7	19.6	▲ 21.6	▲ 17.6	▲ 9.3	▲ 21.6
H31.1~3	▲ 35.3	11.8	▲ 19.6	▲ 13.7	▲ 7.0	▲ 15.6
4~6	▲ 28.6	18.8	▲ 22.5	▲ 28.6	▲ 4.5	▲ 28.6
R1.7~9	▲ 25.0	20.8	▲ 22.4	▲ 33.3	▲ 11.2	▲ 28.6
10~12	▲ 27.4	21.5	▲ 25.5	▲ 23.5	▲ 6.9	▲ 22.0
R2.1~3	▲ 47.0	22.0	▲ 39.2	▲ 21.6	▲ 6.7	▲ 38.0
4~6	▲ 83.6	10.2	▲ 71.5	▲ 60.0	▲ 7.4	▲ 79.6
7~9	▲ 62.0	▲ 5.8	▲ 48.0	▲ 33.3	▲ 4.6	▲ 48.8
10~12	▲ 43.1	0.0	▲ 49.1	▲ 28.0	▲ 6.8	▲ 49.1
R3.1~3見通し	▲ 43.2	▲ 8.0	▲ 47.1	▲ 30.0	▲ 6.8	▲ 49.0



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・コロナ禍の中で、客数増売上増の為に色々な取り組みを行っているが中々戻らない。
- ・コロナの影響で客数の減少及び酒類の売上の減少が大きい。イベントでの酒類の出が良かった分中止になると影響が大きい。
- ・コロナの影響が長期化することで、これまでのやり方や形が機能せず、見込みを立てることができない。

## 小売業の景況

最近の小売商況を概観すると、新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの店舗で極めて厳しい状況にあるが、食品スーパー、ドラッグストア、ホームセンターなどでは、巣ごもり需要やペイントアップ需要をキャッチし売上を伸ばす例もみられ、業種業態による業況格差も広がっている。参考までに、近畿経済産業局が公表する最近の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）をみると、コロナ禍、衣料品などのお出かけ関連需要が年を通じ不冴えであったものの、食品関連やアウトドア用品、ドラッグ関連需要が盛り上がり、9月が前年同月比＋3.4%、10月が同＋8.9%と堅調に推移している。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中4項目で悪化傾向となっている。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲62.0→今期▲43.1、仕入単価（逆指数）が前期▲5.8→今期0.0、採算が前期▲48.0→今期▲49.1、資金繰りが前期▲33.3→今期▲28.0、従業員数が前期▲4.6→▲6.8、業況が前期▲48.8→今期▲49.1となっている。また、先行き（R3年1～3月期）については、今期とは逆に売上高、資金繰りで悪化予測となっているが、低下幅は少なく、ほぼ横ばいで推移することが予想される。

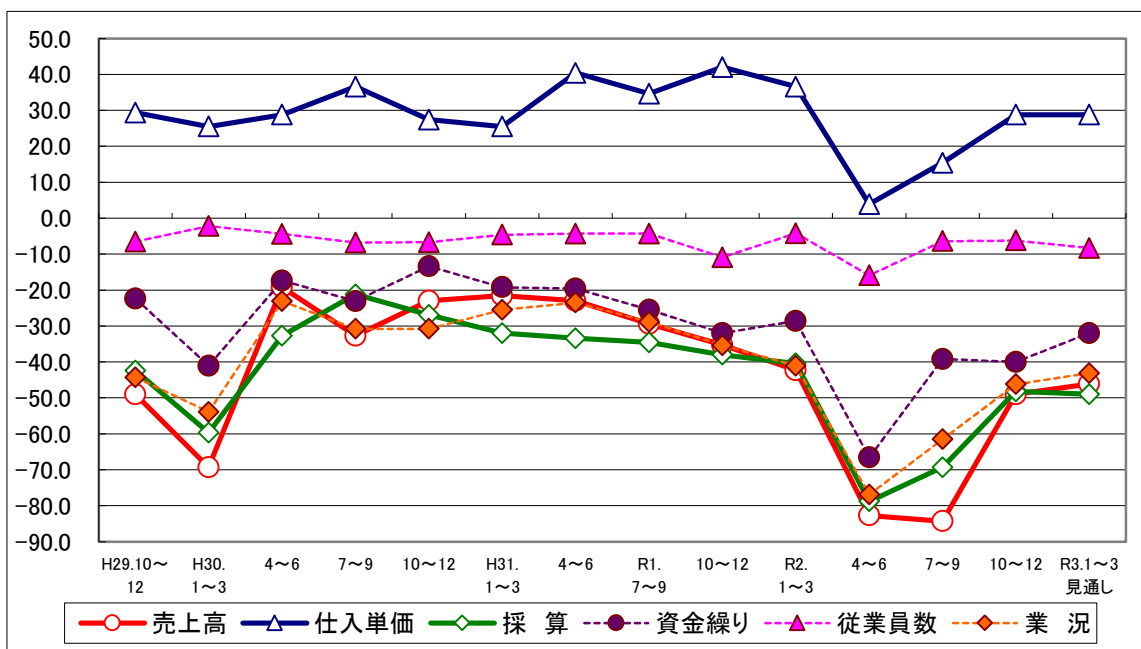
一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の9.8%に対し実施は8.0%となり、実施が計画を下回っている。先行き（R3年1～3月期）についても、何らかの投資を計画する企業ウエイトが8.0%と、今期の投資動向と大きな違いはみられず、概ねこのまま推移することが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト23.5%、1位～3位までに挙げた企業58.8%となった。「その他」に関連する見解としては、「コロナ禍の中で、来店客が元に戻らない」、「コロナの影響が長期化することで、これまでのやり方や形が機能せず、見込みが立たない」など、悲観的な声が多く聞かれた。

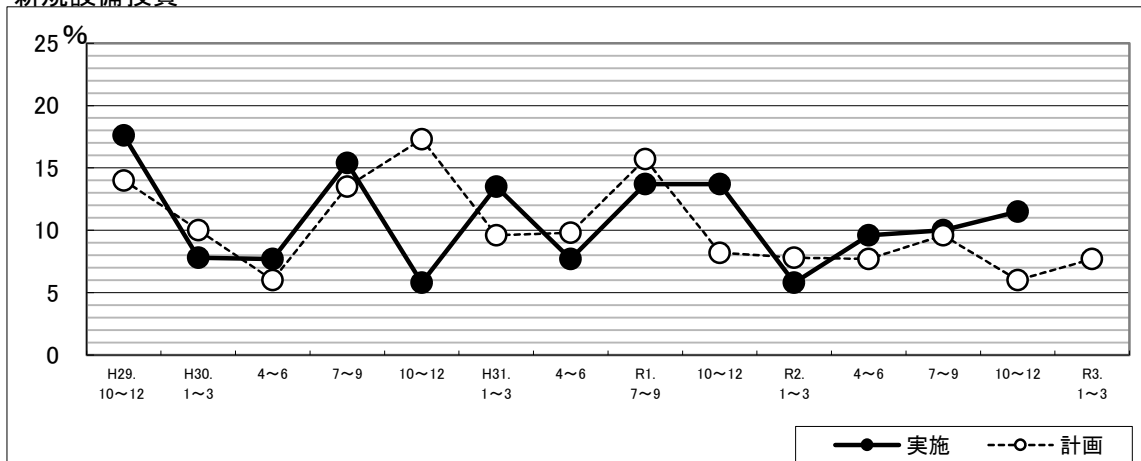
## サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

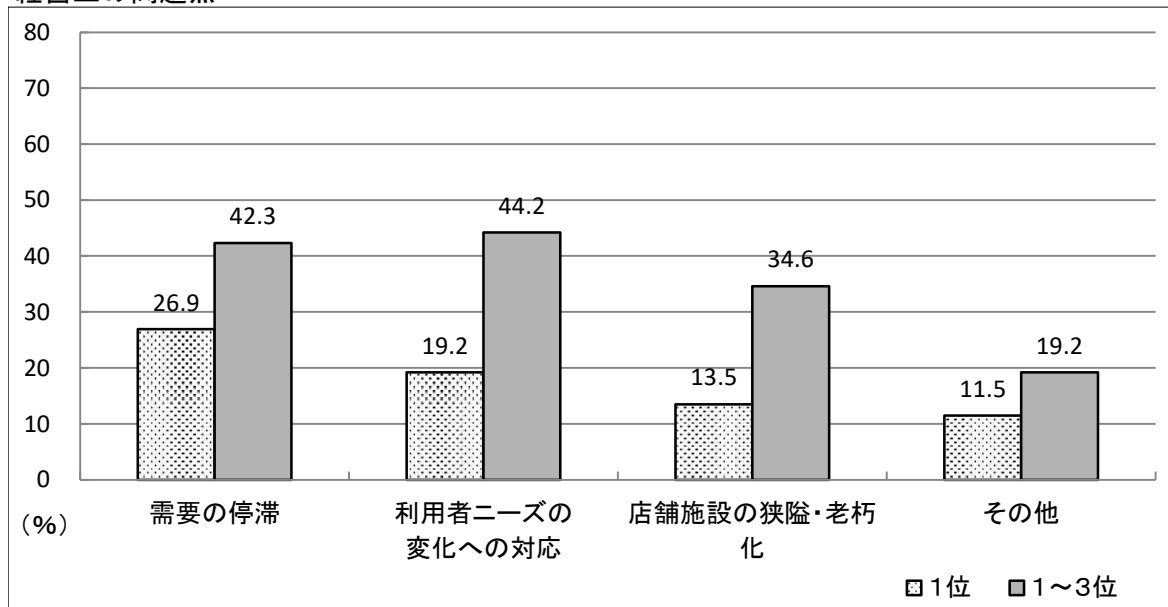
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H29.10~12	▲ 49.0	29.4	▲ 42.4	▲ 22.4	▲ 6.5	▲ 44.3
H30.1~3	▲ 69.3	25.5	▲ 59.7	▲ 41.1	▲ 2.2	▲ 53.9
4~6	▲ 19.2	28.8	▲ 32.7	▲ 17.4	▲ 4.4	▲ 23.1
7~9	▲ 32.7	36.6	▲ 21.2	▲ 23.1	▲ 6.8	▲ 30.8
10~12	▲ 23.0	27.4	▲ 26.9	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 30.8
H31.1~3	▲ 21.6	25.5	▲ 32.0	▲ 19.2	▲ 4.6	▲ 25.5
4~6	▲ 23.0	40.4	▲ 33.4	▲ 19.6	▲ 4.3	▲ 23.5
R1.7~9	▲ 29.4	34.6	▲ 34.6	▲ 25.5	▲ 4.3	▲ 28.9
10~12	▲ 35.3	42.0	▲ 38.0	▲ 32.0	▲ 10.9	▲ 35.4
R2.1~3	▲ 42.3	36.6	▲ 40.4	▲ 28.6	▲ 4.2	▲ 41.1
4~6	▲ 82.7	3.9	▲ 78.8	▲ 66.6	▲ 15.9	▲ 76.9
7~9	▲ 84.3	15.4	▲ 69.3	▲ 39.2	▲ 6.4	▲ 61.5
10~12	▲ 49.0	28.8	▲ 48.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 46.2
R3.1~3見通し	▲ 46.1	28.8	▲ 49.0	▲ 32.0	▲ 8.3	▲ 43.1



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・GoToキャンペーンで個人客は増加したが、企業・グループの団体客が減り、売り上げが伸び悩む。
- ・GoToEatなどの券を使用した来客はあるが、まだまだ集客減少は続いている。
- ・コロナ禍で、営業を予約にした影響、密を避けると同時に、髪をきれいにすることの必要性も少なくなり、お客の来店サイクルが遠のいていると思う。

## サービス業の景況






総務省が毎月実施する「サービス産業動向調査」によると、全国におけるR2年10月のサービス関連産業売上高は、29.2兆円で、前年同月に比べ5.8%の減少、9か月連続の減少となった。減少した産業をみると、鉄道などを含む「運輸業、郵便業」が前年同月比11.3%の減少で、13か月連続の減少。その他の生活関連サービスなどを含む「生活関連サービス業、娯楽業」も同17.4%の減少で、68か月連続の減少。今回のコロナ禍でダメージが大きい飲食店などを含む「宿泊業、飲食サービス業」も同14.3%の減少で、9か月連続の減少となっている。





























































こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中仕入単価と資金繰りを除く4項目で改善傾向を示している。ちなみに、項目別の指数を見ると、売上高が前期▲84.3→今期▲49.0、仕入単価（逆指数）が前期15.4→今期28.8、採算が前期▲69.3→今期▲48.2、資金繰りが前期▲39.2→今期▲40.0、従業員数が前期▲6.4→今期▲6.2、業況が前期▲61.5→今期▲46.2となっている。引き続き県内サービス業は厳しい環境ながら、店舗間の努力や多様な支援策が奏功し幾分改善の兆しもうかがえる。また、先行き（R3年1-3月期）についても、3項目で改善予測となっている。

一方、新規設備投資については、計画6.0%に対し実施が11.5%と、実施が計画を上回っている。また、先行き（R3年1-3月期）については、何らかの投資を考える企業ウエイトが7.7%となり、今期並みの投資マインドがうかがえる。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト26.9%、1位～3位までに挙げた企業42.3%）への指摘が最も多かった。また、個別の見解としては、「Go To Eatなどの券を使用した来客はあるが、まだまだ集客減少は続いている」、「来店サイクルが遠のいている」など、悲観的見解が多く聞かれた。

全国・福井景気動向 令和2年10月～12月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 49.0	15.0	▲ 43.0	▲ 26.6	▲ 7.4	▲ 44.1
	製造業						
	DI値	▲ 54.6	17.6	▲ 46.4	▲ 28.7	▲ 11.2	▲ 49.5
	建設業						
	DI値	▲ 24.1	27.0	▲ 24.7	▲ 11.7	▲ 6.9	▲ 22.1
	小売業						
	DI値	▲ 50.4	7.8	▲ 43.7	▲ 26.1	▲ 2.9	▲ 45.7
	サービス業						
	DI値	▲ 55.4	14.2	▲ 48.1	▲ 32.0	▲ 8.5	▲ 49.0
福井	全体						
	DI値	▲ 43.5	16.2	▲ 41.7	▲ 27.8	▲ 8.0	▲ 41.7
	製造業						
	DI値	▲ 42.0	17.1	▲ 31.6	▲ 18.4	▲ 11.1	▲ 36.9
	建設業						
	DI値	▲ 34.9	20.8	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 8.7	▲ 25.0
	小売業						
	DI値	▲ 43.1	0.0	▲ 49.1	▲ 28.0	▲ 6.8	▲ 49.1
サービス業							
DI値	▲ 49.0	28.8	▲ 48.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 46.2	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

